

今週のみこ	「信仰の使徒であり、大祭司であるイエス」 (出エジプト記2章1節～10節) 「その子が大きくなったとき、母はその子をファラオの娘のもとに連れて行き、その子は王女の息子になった。王女はその子をモーセと名づけた。彼女は『水の中から、私がこの子を引き出したから』と言った。」(2:10) (ヘブル人への手紙3章1節～6節) 「ですから、天の召しにあずかっている聖なる兄弟たち。私たちが告白する、使徒であり大祭司であるイエスのことを考えなさい。」(3:1)
-------	---

今日のメッセージ要旨

◎神様は旧約時代にモーセをエジプトからの解放者として立てて下さり、新約時代にイエス・キリストの十字架の死と復活によって贖いの業を完成された。

◎出エジプト記1章1節～13章16節までの主題は「エジプトでのイスラエル」で、1:1～2:25までには「エジプトでの奴隷生活、神がモーセを選ぶ」が記され、7分解される。①1:1-7、名は次の通り、②1:8-14、新しい王、③1:15-22、男の子は皆殺せ、④2:1-10、モーセの誕生、⑤2:11-15、モーセが大人になった時、⑥2:16-22、ミデアンに逃れたモーセ、⑦2:23-25、エジプトの王は死んだ。

◎神様はアブラハムに「あなたはこの事をよく知っていなさい。あなたの子孫は、自分たちのものでない国で寄留者となり、彼らは奴隷とされ、四百年の間、苦しめられよう。しかし、彼らの仕える国民を、わたしがさばき、その後、彼らは多くの財産を持って、そこから出て来るようになる。」(創世記15:13-14)と語られた。その言葉の如くアブラハムの子、イサクの子、ヤコブの時代になって、ヨセフが宰相として支配していたエジプトに移住し、新しい王になった時、イスラエルの民は奴隷として圧迫された。そこからの解放の御業を神様は始められた。

①神様は彼らの苦しみをご覧になり、知っておられた(1:8-14、2:23-25)。②神様はエジプト王の命令をも恐れず、神様を畏れる敬虔な助産婦を備えられた(15-22)。③神様はヘブル人の家庭にひとりの男の子を誕生させた(2:2)。④三ヶ月になって隠しきれなくなり、ナイル川に捨てられた男の子をパロの娘に拾われ、エジプトの王子として成長した(2:3-10)。その時、姉(ミリアム)の機転により、うば(生みの母)によって育てられたのです。エジプトの王子として成人したモーセは、自分の力によって自国民の解放者としてなろうとしたが失敗し、様々な試練と訓練を経て、モーセが80歳になった時、神様の御手によってエジプトからの解放者として召され、立てられたのです(3:1-12、使徒7:25, 35)。

◎ヘブル人への手紙3章には、イエス様のことを「信仰の使徒、大祭司」と紹介しています。ヘブル人にとって、モーセは律法を神さまから受け、民に伝えた特別に選ばれた神の器であり、信仰の父アブラハムと並ぶ信仰の偉人だった(出エジプト33:11)。しかしイエス様はモーセをはるかにしのぐお方であられるのです(1-6)。

◎ユダヤ人にとって、人間の中で最も権威ある立場は大祭司であった。クリスチャンにとっては、最も権威ある人たちは神の福音を述べ伝える使徒たちである。神の使徒であり、大祭司であるイエス様は、教会において究極の権威であった。

「注意深くイエスのことを考えなさい」(1)。イエス様を信じる私たちには、耳を傾けるべき対象となる方がいる(神の福音を伝えて下さる方)、御父への執り成しをして下さる方がいる(大祭司)。そして従うべき方がいる(その方は神の家のことをすべて任されている)。イエス様が如何に重要で如何に優れているかを考えるときを大切にしたいものです。イエス様は私たちの信仰の中心である御方です。

人間であるしもべに過ぎないモーセよりも大きい栄光を受けるべき御方です。イエス様は人間以上の方であり、神ご自身であられるのです(1-3)。モーセはエジプトの奴隷であったイスラエルの民を導き出したが、イエス様は罪の奴隷の私たちを導き出して下さるのです。いつもこの御方のみ声を聞き続ける者でありたい。